

特集

# 社会資本の ストック効果

## ～ストック効果の最大化、見える化～

### 【特集の趣旨】

社会資本整備の効果には、フロー効果とストック効果があります。フロー効果とは、公共投資の事業自体により生産、雇用、消費等の経済活動が派生的に創出され、短期的に経済全体を拡大させる効果であり、ストック効果とは整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果で、安全・安心効果、生活の質の向上効果、生産性向上効果があります。

また、ストック効果は、その効果を直接の利用者が受ける場合（「直接効果」という）と、直接の利用者からいくつかの段階を経て最終的に効果が現れる場合（「間接効果」という）に分けられます。例えば、高速道路の開通によって、目的地までの所要時間が短縮される、という効果は直接効果、交通が便利になったことで観光客が増大する、という効果は間接効果となります。

社会資本のストック効果の最大化を図ることを基本理念とする第4次社会資本整備重点計画に続き、第5次社会資本整備重点計画が2021年5月に閣議決定され、国土交通省では、この計画を踏まえ、「主体の総力」、「手段の総力」、「時間軸の総力」の3つの総力を挙げて社会資本整備に取り組むことで、ストック効果を最大化させていくこととしています。

ストック効果を最大限発揮するためには、ストック効果を積極的に幅広く把握、「見える化」し、効果を高める工夫と有機的に連携させることが必要であります。また、このため、これまで行ってきた発生ベースでの便益の総量の把握にあわせ、ストック効果が具体的にどう発現しているかという観点から、発現した多様な効果を客観的・定量的に把握するとともに、こうした効果を地域に対して分かりやすく伝え、「見せる化」することが重要です。

今号の特集では「ストック効果の見える化に向けた取組」について概説するとともに、地方整備局・自治体等で取り組んでいるストック効果の「最大化」や様々なストック効果を把握するための「見える化」の事例について紹介します。

特集担当編集委員

（国土交通省 港湾局 技術企画課 技術監理室 課長補佐）

近藤 菜



流域の内水浸水の軽減を目指して整備した「新羽末広幹線」（本号P28～30「新羽末広幹線の整備効果」より）



## CONTENTS

|  |    |
|--|----|
| ストック効果の見える化に向けた取組                      | 8  |
| 名古屋環状2号線のストック効果                        | 12 |
| 南多摩尾根幹線（唐木田）区間完成に伴うストック効果              | 15 |
| 山陰近畿自動車道整備によるストック効果                    | 18 |
| 円山川の自然環境の保全・再生がもたらす効果                  | 21 |
| まちよ、よみがえれ                              | 25 |
| <small>にっぽりすえひろ</small><br>新羽末広幹線の整備効果 | 28 |
| 外貿RORO貨物の一大輸送拠点としての茨城港常陸那珂港区           | 31 |
| 枕崎漁港における高度衛生管理化と漁船大型化に対応する取組           | 34 |